



WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第105(定期)教区会

2007年12月2日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3 6 18
編集人 伊藤裕元

重い課題をステップに

教区・教会の宣教・牧会の業の前進を

主教 ペテロ 植田仁太郎

第105(定期)教区会
にご参集くださいまして
感謝申し上げます。慣例
によりまして議員の皆さ
まにひとこと所信を表明
すること致します。

去る3月の定期教区会
では、通例の報告に加え
て、聖公会神学院におい
て東京教区所属の教員と
当時の聖職候補生との間
に生じた事態について皆

...東京教区第105(定期)教区会
は11月23日(金・休)9時、開会聖餐式
(聖アンデレ主教座聖堂)をもって始
められ、聖アンデレホールに移って10
時~17時半、諸委員会08年度活動計
画と議案の審議がつづいた。本紙は
その審議に先立って行われた、植田
仁太郎教区主教による開会演説...

様と分ち合う時間を設け
ました。それについて
は、関連の議案も提出さ
れておりますので、小職
の説明の足りなかつた点
などは、その議案の審議
の際に申し述べることと
致します。いまは、その
ことについて教区の皆様
の間で、分ち合われた情
報量の多少や、見方の違
いなどによって必ずしも
みなさんが納得のゆく形
で理解されていない状態
であることを認識してお
り、今後は少しでもそれ
を打開してゆくことを
願っていることを申し上
げます。

そのような状態を含め
て、小職の責任の在り方
と姿勢に関わるいくつか

の事例があるのではない
かという、特に外濠教会
グループの牧師協議会か
らのご指摘があり、その
ご助言を受けて去る11月
20日に聖職会を開催致し
ました。個々に取り上げ
られ、意見交換を行った
事例はともかく、小職の
聖職団に対しての司牧の
姿勢について、強く反省
を求めるところがあり、
それを重く受け取ること
となつた聖職会でありま
した。

大切な教区会に臨むに
あたつて、以上のことは
皆さまの心の中のごこが
で案じておられ、また小
職の心の中の多くを占め
ていることですので、ま
るで何も無いかのように

触れないで済ますことは
許されない状況ですの
で、まず、そのことを申
し述べることに致しまし
た。

以上のような未消化の
重い課題を抱えながら、
各教会の教役者・信徒の
方々のご尽力のお蔭で、
教区・教会の歩みが着実
に進められましたことを
感謝致したいと思いま
す。いわゆる教区の諸活
動については、諸委員
会の報告が明年3月の定期
教区会で行われることに
なりますので詳細は省き
ますが、教区全体の歩み
に関わるいくつかの点を
取り上げておきたいと思
います。

この4月に、神学院を
卒業されて、4人の方々が
教役者として加えら
れ、すでにそれぞれの派
遣教会で宣教・牧会の業
の一端を担って下さつて
おり、これは、教区に
とつて誠に大きな力と

なっています。それと同時に、今回は、主として主日の礼拝の責任を分ち合って下さっている多くの退職聖職の方々のお働きを憶えたいと思います。実は、この秋になりまして、その責任を負ってきて下さった何人かの退職聖職の方々が無事な病に倒れられたりいたしまして、その方々の毎主日のお働きが如何にありがたいことであつたかを、改めて感じさせられた次第です。言うまでもなく、囑託として、特定の教会に定住、協力くださっている方々のお働きの重さをも、深く感謝しております。また諸学校のチャプレン団の応援もあって、初めて教区内の教会で毎主日聖餐式がかかるついで守られているというのを、改めて皆さまとともに、感謝したいと存じます。

それにつけても、引き続き、聖職に召される

方々が与えられますように、皆さまの祈りとお支えをお願い致します。

これらの各教会の礼拝・牧会・宣教の業に支えられて、教区としてもいくつかの实りある働きを行うことができました。

ひとつは、大韓聖公会ソウル教区との交わりの深化です。昨年の、正義と平和協議会主催のソウル教区の働きを訪ねる「オウルリムの旅」に引き続き、本年も10月に、信仰と生活委員会主催で、同じくソウル教区を訪ねる「ナヌムの旅」を実施することができ、5名の教役者を含む15名が、ソウル教区の様々な働きから学ぶ機会を与えられました。大韓聖公会との交わりはかれこれ40年にわたって続けられてきておりますが、その間成長著しい韓国のキリスト教界にあつて、ソウル教区の近年の宣教の業の熱意に

直接学びたいという私達の思いは、比較的新しいもので、その思いに込めて下さっているソウル教区から、東京教区が大きな刺激を与えられていることは確かです。

また3年目を迎えたエルサレム教区との協働も、本年は12名のボランティアの方々を同教区内のヨルダンの視聴覚障害者施設に3週間にわたって派遣する事業を行うまでに発展しました。当初の、パレスチナの地と、パレスチナの人々の現状、またその訴えに耳を傾けることから、一歩踏み込んで、ひとつの協働の実をあげることができたと思われます。

今後の教区の姿と在りようについての期待は、具体的には2008年の予算をとおして、またより包括的な方向については、企画室における検討

内容や今議案として出されている課題によってある程度示されていると思えます。

来年のことではありませんが、日本聖公会全体で行われようとしていることのひとつに、「日本聖公会宣教150周年記念礼拝」があります。2009年が、ウイリアムス主教来日から150年に当たりますので、カンタベリー大主教を始め、日本聖公会の宣教の歴史に深い関わりのある海外諸パートナーをお招きして、ともに感謝と新たな歩みのための礼拝を行うとすものです。すでに管区から、その礼拝実施に向けて、東京教区の皆さまにご協力いただきたい旨、要請を受けております。その年は教区フェスティバルに代えてこの礼拝を致したいと構想しておりますので、今から憶えていただければ

幸いです。

冒頭に述べましたように、必ずしも明快な解決と和解と共通理解への道筋が見えていないような問題と誠実に向き合いつつ、またそれを教区全体がより善い方向へ向うステップとして、それぞれの教会の宣教・牧会の業が前進することを、そのことに小職と聖職団が努めてゆけるよう、皆さまのお支えを引き続きお願いして、この教区会のご挨拶と致します。

